

学会・研修会・講習会等の情報掲載申込書

平成 27 年 10 月 10 日

公益社団法人愛知県理学療法士会 代表理事 殿

以下の通り、学会・研修会・講習会等の情報掲載を希望します。

脳卒中後中等度～重度麻痺に対する課題志向型訓練 ～物理・装具・ロボット・ボツリヌス療法における療法士の役割と工夫～

開催日：2015年1月10日（日）10：00～16：00（受付9：30～）

内 容：

2000 年を境に、ニューロリハビリテーションが発達し、現在では慢性期においても脳卒中後の上肢麻痺が改善することは常識となりつつある。

しかしながら、ニューロリハビリテーションの代表格である Constraint-induced movement therapy (CI 療法) をはじめとしたその手法は、随意運動が十分に出現した中等度から軽度の上肢麻痺を呈した症例が適応となっている。Brain Machine/Computer interface (BMI/BCI) など、弛緩性麻痺といったかなり重度例に対する手法も提示されてはいるものの、高額な機器を必要とし、一般病院で重度～中等度上肢麻痺を呈した症例に対して、定常的に提供できる手法とは言えない。

そういった背景の中で本講義では、比較的身近な資源（ボトックス療法、電気刺激、装具療法）を用いて、エビデンスが保たれた課題志向型訓練を、重度から中等度の痙性麻痺を呈した対象者に提供するための工夫を提示する。

本講義の目的は、それぞれの手法のコンセプトとメカニズムを丁寧に説明し、実際の臨床で活かすことができる「手がかり」を提示することで、中等度から重度の痙性麻痺を呈した対象者の麻痺手を生活において「使用できる手」となるよう援助ができることを目的としている。

《プログラム》

- ・概論
- ・ボツリヌス療法における療法士の役割
- ・装具・ロボット・末梢電気刺激療法の実際と療法士の役割
- ・それらを用いた重度例への課題志向型訓練の実際

講 師：竹林 崇 先生（兵庫医科大学病院 リハビリテーション部 副主任技士・作業療法士）

会 場：名古屋国際会議場 2 号館 2 階 会議室 2 2 4

受講費：12,500 円（税込）

定 員：100 名

セミナーのお申込は[合同会社 gene ホームページ](#)よりお願い致します。

締 切：定員になり次第締め切り

主 催：合同会社 gene（愛知県士会後援依頼申請中）